

県内の遺跡・遺物24

さめが お
鮫ヶ尾城跡 (新潟県指定史跡・昭和39年指定)

所在地：新井市大字宮内字矢代山

戦国時代、上杉氏の本拠春日山城の支城として築かれたものと考えられており、箕冠城（中頸城郡板倉町）とともに信越国境を警備する重要な拠点であった。城主堀江宗親の時、春日山城で謙信が亡くなり、1578（天正6）年、影虎・影勝の相続争いが起こった。これが「御館の乱」である。追われた影虎は、小田原城をめざす途中で鮫ヶ尾城に逃げて来たが、城主宗親は影勝に降伏し、影虎はこの城で自害した。その際に城も陥落し、米蔵跡に残る炭化米が当時の戦火を偲ばせている。

本丸の海拔は約180mを測り、頸城平野を眼下に収める展望は壮観である。山頂および山腹にかけて、大小多数の曲輪跡や空堀、土塁、井戸などが残っており、特に山腹までくだる深い縦空堀が特徴的な山城である。山麓の斐太神社（延喜式内社）は、鮫ヶ尾城の鬼門鎮守として、城主のあつい保護をうけたという。なお、城跡はふもとの斐太遺跡（弥生時代の高地性集落・国指定史跡）とともに、地元の方々によって日頃からよく整備されている。



鮫ヶ尾城跡と宮内集落（1999年2月5日撮影）

あ と が き

今年度も、いくつかの遺跡がマスコミに話題を提供しました。埋蔵文化財調査事業団では、冬季にこれらの成果を公表するための作業を進めています。春の足音とともに、タイヤをはきかえて、祖先が築いた歩みの重みを感じつつ新年度の発掘調査に出かけます。(S)

埋文にいがた No.26

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1

TEL (0250) 25-3981

FAX (0250) 25-3986

印刷（株）文久堂